

ついに後継機が登場!

二足歩行ロボットキット

KHR-2HV

キットレビュー

あずさ
梓 みきお

ホビー二足歩行ロボットキットとしてトップセラーを記録した近藤科学(株)の「KHR-1」。その後継機として、今回「KHR-2HV」が発表された。発売直前のテストショットをお借りすることができたので、徹底レビューを行うことにした!

KHR-1から KHR-2HVへ

二足歩行ロボットの入門キットとして知られる「KHR-1(以下「1」)」2004年6月の発売以来、二足歩行ロボットのイベントでは、改造機を含めて必ずと言っていいほどその姿を見る、ホビー二足歩行ロボットの“スタンダード”となった機体である。

その発売2周年を前にしたこの5月に、後継機として「KHR-2HV(以下「2」)」が、突如としてリリースされた。今回、発売前の試作機をお借りすることができたので、まずはどこが変更されたのかを大まかにチェックしてみよう。ちなみに、設計は「1」と同じく、“R-Blue”で知られる吉村浩一氏の手によるものだ。

まず最初にわかる大きな変更点は、フレームのモデルチェンジだ。主な材質自体は、厚さ1.0mmのアルミ板で「1」と同じだが、「1」のフトモのような複雑な板金パーツ(写真2)がなくなり、コの字型のブ

ラケットはすべて樹脂製のアームに置き換わっている。

また、正式名に「HV」と入ることでわかるように、アクチュエータであるサーボモーター(以下、サーボ)も“HV=ハイボルテージ版”に変更されている。数は17個と変わらないが、「1」では6V仕様だったサーボがすべて10.8V仕様の「KRS-788HV」となり、付属のバッテリーと充電器も10.8V仕様のものに変更された。

そして、マイコンボードは新型の「RCB-3J」が同梱されている。「RCB-3」から一部の機能をカットしたもののだが、グラフィカルなモーション作成画面など、主機能はそのままだ。

以上の3点が主な変更点である。さらに細かい改良点については、実際に組み立てを行うときには充電済みのバッテリーが必要になるので、付属の充電器で一晩(最大で12時間かかる)充電しておこう。

ややこしい部分は 最初に整理

「1」に比べて板金パーツの数は減ったが、写真1でもわかるように、それでも結構な量の部品がある。特に、ビス類は小さく似たサイズのものが多いので、使うときまで袋から出さないように。

組立説明書は付属のCD-ROMにPDFファイルで収められているので、パソコンの画面上で参照しつつ進めることができる。



とはいえ、画面では何かとやりにくいので、印刷しておくのがベストだ。あとは#1のドライバー1本と、カバーを切り離すためのカッターがあれば、組み立てる道具が揃う。

さて、「2」の組み立ては、「1」と同じくサーボのケースビスを外すことから始まる。が、その前にやっておくと便利なのが、付属の「サーボリード用デカール」の貼り付けだ(写真3)。付属する17個のサーボのうち、4つだけケーブルの長いものがあるので(写真4)その4つに「CH14」「CH15」「CH20」「CH21」を、その他のサーボには残りの番号のデカールを、コネクター近くのケーブルに貼り付ける。組立説明書では各組み立て段階で貼るようになっているが、最初にまとめてナンバリングしてしまったほうが、以降の作業がスムーズだ。

ただし、「サーボ本体用デカール」については、先に貼ってしまうと、組み立てたときにブラケットなどに隠れてデカールが見えなくなってしまう可能性があるので注意しよう。



写真1 KHR-2HVの部品一覧。板金パーツがぐっと減っているのがわかる。この時点ではどこに使うのか謎のパーツも。



写真2 「1」のフトモパーツ。吉村氏いわく「あんなに面倒くさい曲げにしなければよかった」といほど難しいらしい。



写真3 シールが手元がないので、組立説明書から。サーボ本体に貼るシールは「1」にも付属していたが、コネクター近くにも貼るほうが、より便利。

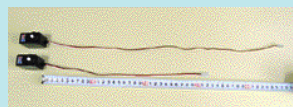


写真4 標準のサーボケーブルの長さは325mmに対し、長いほうは480mmもある。延長コードではなくなったため、「格闘の途中で抜ける」なんて場面も減りそうだ。